

# 会長だより

## 大鳥神社へ初詣

あけまして  
ごいいます。

年配の人なら日本武尊(やまとたけるのみこと)といえは古代の悲劇の英雄として教科書にも登場し、懐かしく思い出されるのではないですか。



大鳥神社大鳥居

父の景行天皇に命ぜられて東に西にまつらぬ敵を平らげられました。

九州の熊襲を平定した時には、乙女の姿となつて熊襲を討ち、東国では荒れた海を鎮めるため尊の身代わりとなつて、弟橘媛が身を投げ、海神を鎮めたという話や、草薙剣の名の由来などいろいろの有名なお話もありま



参拝順を待つ行列

す。尊はあげくは伊吹山で神の祟りに合い、病に倒れ伊勢の国能褒野(のぼ)で薨去されました。遺体はその地に葬られましたが、その陵墓から魂が白鳥となつて飛んでいき、大和の国、河内の国に降り立ち最後に大鳥の地に舞い降りたので、そこに社を建てて祀つたという事です。

一般には「大鳥大社」と呼ばれているようですが、その大社由緒略記によりますと、祭神は日本武尊、大鳥連祖神(おおとりむらじのみおやのかみ)で、和泉の国一之宮です。



拝殿と賽銭箱

927年の延喜式神名帳にもあり、皇室や武家の尊崇厚く、徳川家の保護も受けています。さて初詣ですが、さすが一之宮でたくさんの人であふれていました。鳥居をくぐってすぐからもう拝殿への人が並んでいます。想像していたより小さい御宮でしたが列は200米以上もあつたでしょうか、横に5・6人の列です。30分くらいしてやっと順番が来ました。目の前に白い布を張った賽銭を入れる賽銭箱と言えるのでしようか、拝殿の前にずっとつづいており私の頭より上なので、拝殿やその周囲の様子は全く見えません。2札、2拍手、1札の参拝もそこそこに押し出されるようにして帰り路へ。社務所によつてご朱印を受け、帰途に着きましたが御



おみくじ

宮の印象は、ただただ人の波で境内摂社も境内の景色も見ることができず、なかなか物足りない感じが残りました。帰り道が行く時と全く違う道だったので、駅がわからず大回りしてとても疲れました。

記・写真 牧戸 富美子

神様への供物の  
メニューが  
変わりました  
あけまして  
おめでとうございませ

写真はモズが我が畑に作つた贅(にえ)で、これを「百舌の速贅」と言い、冬の訪れを表す風物詩です。

「贅」という言葉は古来、早稲や産物を神に供奉、感謝の意を持っていきます。その為の行事は各地で残

つています。今年も肌寒く感じる頃、モズが虫などを捕らえて、竹や木の枝の先に獲物の体を貫いて保存しています。見事な一瞬の早業だと思われま

翌春、餌の無くなるころの為に保存する習性とも言われていますが、翌春食べれた形跡を見たことはありません。



神への供物  
おんぶバツタ

蛙でしたが、今年はキリギリス、バツタ、みみずと蛙とメニューが多く、神様は喜ばれているのではないのでしょうか。

モズは高い木の梢で鋭い声で鳴いているかと思えば、ひ弱な声を出したり、時には動物の鳴き声も出すという器用な鳥です。神への供物と新春への蓄えを呼びかける鳥とご理解下さい。

記・写真：上村 サト子

## 四季彩

### フォックスフェイス



フォックスフェイス

あなたはその名の通り、キツネの顔に見えますか？日本名は「トゲナシツノナス」見る人にとつて「カナリアナス」ともい

小鳥のカナリアの黄色い羽を連想するためらしい。私の近くの畑の畝で、茄子の収穫が終わつた10月、12月頃まで毎年見事に黄色く色づいている。色づくまで期間が長いので、狭い家庭菜園では余裕がないので栽培できず残念。草丈約2mだが生花店では適当な高さに揃えてあるが、広い会場に活けられた花瓶で高々と目立つ存在で見かけるので皆様も注目してください。

一年草、原産地熱帯アメリカ

記・写真：上村 サト子